

発見!

たからモノ ただみの文化遺産

第1回

「日米友情の人形」

平和と戦争を見つめる青い目の人形



▲現在展示中の雛人形と日米友情の人形



▲日米友情の人形

只見町立只見小学校蔵（当館保管）
制作：アメリカ・ホースマン社 銘：ELH©
年代：1927年来日 大きさ：34.8cm



▲スリーピング・アイの人形

1912年（明治45）に日本からアメリカに3000本の桜が贈られワシントンに植えられたころは、両国は友好関係でしたが、1920年代に關係は悪化しました。世界児童親善会のギュリック氏は、關係悪化を心配して、両国の子どもが友だちになり、友情を築いておとなになったとき、両国に戦争が起こらないようにという願いを、人形を通じて伝えようと思いました。アメリカの子どもや親たちが寄付を集めて日本に人形を贈り、日本中の子どもたちが人形を飾るという、両国の子どもどうしの交流で友情と好意の心を育てようという理念です。日本では実業家の渋沢栄一氏（2024年から1万円札の肖像画）が、日本国際児童親善会を設立して受け入れました。

1927年（昭和2）2月に、11975体の「友情の人形」（Friendship-Doll）が日本に着き歓迎されました。3月の雛人形といっしょに飾ってもらうために時季が選ばれ、日本各地（台湾・朝鮮を含む）の小学校や幼稚園に分けられました。福島県に323体、南会津郡に7体、その一つが只見の伊北尋常高等小学校に来ました。それが只見小学校の人形です。

その後、1937年（昭和12）に日本と中国との戦争がはじまり、1941年（昭和16）にアメリカを含む諸国と太平洋戦争が起こりました。1943年（昭和18）に、日本中の青い目の人形は、「敵性」（交戦国のもの）として、子どもたちの前で壊され処分されました。

只見の人形は、小学校の先生たちが、人形には罪はない、という気持ちから、校内の目立たない所に納めて、“人形はすでに処分した”と報告したそうです。1973年（昭和48）に日本各地で「日米友情の人形」が再発見されたころ、只見小学校でも玄関近くに飾られました。

現在残っている友情の人形は、約300体（2.5%、福島県では19体）ですが、各地に人形を守った人々がいました。只見の人々がこの人形を守ったから、「日米友情の人形」の現物を、只見で見ることができるのです。平和と戦争を見つめてきたこの人形は、私たちに国を越えた友情の大切さを語りかけています。只見で日本史・世界史を語る文化遺産です。これからはモノとくらしのミュージアムで保管し、7段飾りの雛人形（朝日保育所寄贈）といっしょに「日米友情の人形」を展示していきます。人形が来てもうすぐ100年です。

文：久野俊彦
写真：原永円香



ただみ・モノとくらしのミュージアム 展示情報



第1回テーマ展「ただみ・冬のくらし」

会期：1月31日（火）～5月28日（日）

場所：ただみ・モノとくらしのミュージアム 展示ホール